

ヴォーカル学科

1年次生

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品 I
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、楽典基礎、作詞、作曲などアーティストとして必要になる様々な要素や、今後オリジナル楽曲を作っていくための土台となる知識・スキルを幅広く身に付けていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期はまず、基礎の楽典、譜面の書き方、コード弾き練習などを重点的に勉強した後、学期末には授業内に制作したオリジナル楽曲（断片）を提出してもらいます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定についてのオリエンテーション
- ② 音名、変化記号などを覚えます 作詞実習
- ③ リズムの書き方を覚えます。メロディを作ってみます。
- ④ コードネーム（トライアド）について。作ったメロディを楽譜にしてみます。
- ⑤ コードネーム（トライアド）について。作ったメロディにコードを付けてみます。
- ⑥ メジャースケールと調号について。課題曲の弾き語りにはトライします。
- ⑦ 課題曲を弾き語り 演奏テスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ メジャー五度圏について。作詞をしてみます。
- ⑨ ダイアトニックコード表（トライアド）作り
- ⑩ 1クォーターに創作したメロディにコード付けしてみます。
- ⑪ コードプログレッションを学びます。オリジナル曲作りを始めます。
- ⑫ 既存曲の歌詞の構成を分析してみます。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑬ オンコードについて学びます。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑭ オリジナル曲作りを続けます。
- ⑮ オリジナル曲（断片）を歌って発表。オリジナル曲（断片）を歌って発表。

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品Ⅱ
担当講師名	桑村 達人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、楽曲提供に於ける作詞、作曲、アレンジャー経験をもちます。

授業内容

ピアノ弾き語りの基礎を身に付け、自分で詞・曲を創作する楽しさを体感します。希望があれば（後期から）ギター弾き語りにも対応します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

まず鍵盤に馴染みつつ歌えるようになること、1年の終わり迄にオリジナル楽曲を発表出来るようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、自己紹介、まず 鍵盤に触れてみる
- ② 音名、両手 役割、課題曲 1練習
- ③ トライアド、スケールについて、聴音、課題曲 1練習
- ④ 基本的なコード バリエーション、課題曲 1練習
- ⑤ 記録方法を身に付ける(メロディー譜、コード譜)課題曲 1練習
- ⑥ 任意 言葉にメロディーを付けてみる、課題曲 1練習
- ⑦ テスト： 課題曲 1ピアノ弾き歌い

中間試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度取り組みを重視します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自分が好きで影響を受けた歌を発表、自分にとって良い歌 とは ?課題曲 2練習

- ⑨ 6th、sus4、7thについて、課題曲 2練習
- ⑩ 弾き歌いのメカニズムについて考える、課題曲 2練習
- ⑪ ダイアトニックコードについて、課題曲 2練習
- ⑫ 任意 曲 ブランク部分にメロディーを作ってみる、課題曲 2練習
- ⑬ 任意 曲 ブランク部分に歌詞を作ってみる、課題曲 2練習
- ⑭ 歌ものに於けるメロディー 構造について研究、課題曲 2弾き歌い練習
- ⑮ テスト:1 . 課題曲ピアノ弾き歌い 2. オリジナル(出来た者のみ) 3. 任意コード押さえ

期末試験評価方法・評価基準

取り組み、出席、受講態度を重視します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品 I
担当講師名	小池 道昭
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレコード会社でのアーティストとしての活動など、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、講師の実務経験(アーティスト活動及び映画やCM等の音楽制作など、作曲家、編曲家としての活動)に基づき、今まで知らなかった音楽に触れる事で曲作りへの興味を高め、少しずつでも曲作りに結びつけていきたいと思ひます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

今まで知らなかった知識を知り、少しずつでも曲作りの仕方を覚えることを通して、社会に出てからも必要とされる想像する力を身に付ける場にしていきたいと思ひます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①自己紹介をしながら、個々の好きな音楽をリサーチします。
- ②いろんなジャンルの代表的な曲を聞いて、特徴 etc. を話し合ひます。
- ③調号、音符、小節など楽譜の決まり事を学び、楽譜の基本的な読み方、書き方を覚えます。
- ④歌詞を書いてみて、きっかけになった感情が歌詞に表現できているか初期衝動を忘れてないかをチェックします。
- ⑤出来ないと言う先入観を持たずに、鼻歌・歌詞など得意な事から曲作りを始めてみます。
- ⑥コードを付けてあげるといっばしの曲になる事を実感してもらい、曲作りのハードルを下げっていきます。
- ⑦応答形式の質問等で、課題の理解度をチェックします。(テスト)

中間試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢を重視します。
出席 40% 平常点 30% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧いろいろなジャンルの曲を分析して、ジャンルによる違い・特長をつかんでいきます。
- ⑨好きな曲を自分のものにしていくと個性につながりやすいので、自分の好きな曲を分析して、メロディーの特徴を把握します。
- ⑩日本で活躍しているシンガーの中にもルーツは洋楽というシンガーは多いです。ポピュラー音楽のルーツを学びます。
- ⑪名曲と呼ばれる曲を聞いて、感動を呼ぶ秘訣を探っていきます。
- ⑫楽器の特性を学び、編曲も少し勉強していきます。
- ⑬声はヴォーカリストの最大の武器なので、声を伸ばすことで作曲能力が上がる事を知っていきます。
- ⑭生の演奏で歌ってみて、調和・リズムの大切さを知っていきます。
- ⑮自作曲又はカバー曲を伴奏もしくは弾き語りで歌います。（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢を重視します。
出席 40% 平常点 30% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品 I
担当講師名	福富英明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シンガーソングライターとしてメジャーレーベルから CD デビューし多数の楽曲を作成。

授業内容

オリジナル作品制作に必要なコードの知識を、さキーボードを弾きながら学ばせる。
さまざまなテーマで作詞作曲を行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オリジナル作品の制作。
音楽的な耳を養う。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メジャーコードとマイナーコードの説明
- ② LET IT BE の弾き語り
- ③ Maj7. 7. 6 の説明
- ④ コードの展開形を学ぶ
- ⑤ テーマを与えて作詞する
- ⑥ LET IT BE とカバー曲の弾き語り練習
- ⑦ 弾き語りテスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ダイアトニックコードとキーの説明
- ⑨ Close to you 弾き語り
- ⑩ カバー曲のキーをCに移調する

- ⑪ 楽曲を聞いてキーを捕まえる
- ⑫ テーマを決めて作詞をする
- ⑬ 与えられたコード進行でメロディーを作る
- ⑭ ワンコーラス作成
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% テスト 40% 出席 20%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品Ⅱ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、楽典基礎、作詞、作曲などアーティストとして必要になる様々な要素や、今後オリジナル楽曲を作っていくための土台となる知識・スキルを幅広く身に付けていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期は、移調の知識、コードネーム応用、ダイアトニックなど、前期に比べより実践的な内容を勉強した後、学期末には授業内に制作したオリジナル楽曲（1コーラスまたはフルコーラス）を提出してもらいます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セブンスコードについて学びます。オリジナル曲作り（2曲目）を始めます。
- ② マイナースケール3種類を解説します。
- ③ 移調のやり方を解説します。オリジナル曲作りを続けます。
- ④ 任意の弾き語り課題曲をCメジャーに移調。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑤ 任意の課題曲をCメジャーに直して弾き語り練習。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑥ 任意の弾き語り課題曲を分析。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑦ 任意の既存曲を弾き語り 演奏テスト。オリジナル曲の譜面を提出。

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 7th コードの復習と、ダイアトニック表（セブンス）作り。
- ⑨ コード付け課題にトライします。オリジナル曲作り（Ⅲクォーターの続き/3曲目）を始めます。
- ⑩ メロディ譜、バンド譜の書き方について。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑪ sus4、dim7、6th、add9 について。オリジナル曲作りを続けます。
- ⑫ オリジナル曲作りを続けます。
- ⑬ オリジナル曲作りを続けます。hZ
- ⑭ オリジナル曲作りを続けます。
- ⑮ オリジナル曲（1コーラスまたはフルコーラス）を歌って発表。作成したメロディ譜を提出。

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品Ⅱ
担当講師名	桑村 達人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、楽曲提供に於ける作詞、作曲、アレンジャー経験をもちます。

授業内容

更に楽曲を作る上での専門的なノウハウを伝授、歌物のポップソングを形にする上での曲のブラッシュアップ方法、サウンド作りの上での楽器の成り立ちの基本について伝授します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分なりの弾き歌いのスタイルを見つける、音をある程度自在に扱えるようになる。コードについての理解を深める。自分のオリジナルを弾き歌いパフォーマンス出来るようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベース音を聞き分ける、曲 キーについて考える、オリジナル曲創作、課題曲 3 練習
- ② 楽曲 構成について考える、オリジナル曲創作、課題曲 3 練習
- ③ 9th について、スケールについて再確認、グループ創作、課題曲 3 練習
- ④ コードを自在に転回させてみる、正しいリズムで弾き歌えるようにする、オリジナル創作
- ⑤ 記録方法を身に付ける(メロディー譜、コード譜)課題曲 1 練習
- ⑥ 題に沿ってグループに分かれ創作する、課題曲 3 練習
- ⑦ テスト: :1.課題曲弾き歌い 2.オリジナル(出来た者のみ) 3.メジャー スケール基本キーで弾く

中間試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度取り組みを重視します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 題に沿ってグループに分かれ創作、個々 オリジナル創作、自選曲 1 練習
- ⑨ 転調 メカニズムについて考える、自選曲練習、オリジナル創作
- ⑩ 童謡聴音～コードを付けてみる、ダイアトニックコードについておさらい、自選曲練習
- ⑪ 任意曲を耳コピしてみる、曲サイズ取り方について、オリジナル創作
- ⑫ グループで協力して作った曲を仕上げ分担してパフォーマンスする、自選曲練習
- ⑬ 任意 定型コードにメロディーを創作してみる、自分 好き なコード進行にメロディーを付け
てみる、オリジナル創作
- ⑭ 自作曲 構成について洗い直す、評価しあう、自選曲練習
- ⑮ テスト:1.オリジナル完成版披露 2.自選カバー曲弾き歌い 3.指定 コード押さえ

期末試験評価方法・評価基準

取り組み、出席、受講態度を重視します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品Ⅱ
担当講師名	小池 道昭
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレコード会社でのアーティストとしての活動など、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、楽器に触れる、とりわけ弾き語りに取り組む事が作曲をより身近なものにしてくれる絶好の方法だという事を伝えていきたいと思えます。楽器に触れる事でただの知識が個性を引き出すツールに変わっていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

どんな仕事や作業でも、最後までやり遂げるには根気が必要です。音楽作品制作という作業を通して、最後までやり遂げる根気強さを身につけていって欲しいです。

授業計画（1回目から7回目）

- ①コードとは何かを解説し、コードの表記の仕方 etc. を学びます。
- ②ほとんどの曲はダイアトニックコードが中心で出来ていることを知り、その仕組みを知っていきます。
- ③まずはコードの基本であるトライアド（三和音）を弾いて覚えます。
- ④音符、休符、タイ e t c. のリズムにつながる基本を復習し、アフタービート、シンコペーションなどのリズム表現を知っていきます。
- ⑤コードを知識から自分のものにする為には、弾き語りをやってみるのが早道です。まずはピアノの弾き語りにトライします。
- ⑥歌が良くなれば作曲力も上がるので、作詞・作曲だけでなく、ヴォーカル力も上げていきます。
- ⑦自作曲又はカバー曲を弾き語りで歌います。（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢、そろそろ成果も重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧調を判別しベースの音をよく聞いて、耳コピをマスターしていきます。
- ⑨視覚的に見ると分かることがたくさんあるので、簡単なメロディー譜の書き方を覚えませす。
- ⑩コードには鼻歌を音楽に変える力があります。考えたメロディーにコードを付けて実感していきます。
- ⑪リズムが分かると曲も歌も変わってきます。曲全体のリズムを考え各セクションのリズムも決めていきます。
- ⑫歌詞とメロディーの相性で曲が良くなる事もあります。歌詞を見直し、メロディーとのはまりをチェックします。
- ⑬メロディーを譜面に書くと、なぜか曲や歌が良くなってきます。メロディー譜を書いてもう一度全体を見直します。
- ⑭テストに向けて譜面を最終チェックし、リハーサルを行います。
- ⑮自作したオリジナル曲を発表します。（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢、そろそろ成果も重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル作品制作ⅡA/オリジナル作品制作ⅡB
担当講師名	福富英明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シンガーソングライターとしてメジャーレーベルより CD デビュー。多数の楽曲を作成

授業内容

キーボードでコードを理解し、弾き語る。作詞作曲のハウツーを学び、自分で制作する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オリジナル作品制作とキーボードの弾き語り

授業計画（1回目から7回目）

- ① Story の弾き語り
- ② テンションについて説明
- ③ カバー曲の弾き語り
- ④ 与えられたコード進行で楽曲制作
- ⑤ 既存の曲を聴きキーを当てる
- ⑥ オリジナル作品制作および弾き語り練習
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 雪の華弾き語り
- ⑨ オリジナル作品制作及び弾き語り練習
- ⑩ オリジナル作品制作及び弾き語り練習
- ⑪ オリジナル作品制作及び弾き語り練習
- ⑫ オリジナル作品制作及び弾き語り練習

- ⑬ オリジナル作品制作及び弾き語り練習
- ⑭ オリジナル作品制作及び弾き語り練習
- ⑮ オリジナル作品制作及び弾き語り練習

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オリジナル動画制作
担当講師名	笠原 康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして3年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

用途や制作環境に応じてYOUTUBE、SNS、PV制作など様々な動画制作に関わるKnow-Howを実際の制作を通じて基礎から学ぶクラス。具体的にはADOBE PREMIERE・AFTEREFFECTS・PHOTOSHOPを使用しながら視聴者にアピールするリッチなコンテンツの作るためのコンセプトから作成のプロセスを解説します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

第三者が見て楽しいと思う作品、魅力のある動画、コンセプトがしっかりある作品を作れるようになる。そのための企画力、エンターテインメント性、それを具現化する技術力を培うための方法論を獲得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 職業としての音楽現在の状況、環境、音楽の将来性
- ② “企画企画ミーティング 何を作る事が可能か”
- ③ 絵コンテ グループで絵コンテ作成
- ④ 撮影撮影技術 音声、照明などのテクニック
- ⑤ 作品制作動画の取り込み、編集
- ⑥ 作品制作動画の取り込み、編集
- ⑦ 試験作品提出

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品鑑賞 前クォーターで制作した動画の鑑賞
- ⑨ 参考になる作品を考えるネット上ではどんな人達が何を考え、何が作られているか
- ⑩ 第2作の企画 前回の反省から新しい試みを考える
- ⑪ 絵コンテ グループで絵コンテ作成
- ⑫ 作品制作動画の取り込み、編集
- ⑬ 作品制作動画の取り込み、編集
- ⑭ 作品制作動画の取り込み、編集
- ⑮ 試験作品提出

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォイストレーニング I
担当講師名	入来院真嗣
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社の仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録ディレクション、その他歌手や声優・商業劇団などへの歌唱指導の実務経験を持ちます

授業内容

ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

無理のない効率的な発声を理解・獲得し歌唱表現に活かすこと、また、グループレッスンを通して人前で歌うことに慣れ、同時に他者を観察することで得られる自身の表現力向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスと基礎演習。授業を受ける上での心構えや課題について説明します。
- ② 姿勢と呼吸。歌唱における姿勢や呼吸の重要性について解説・実践します。
- ③ 呼吸とリズム。前回の授業を踏まえ理解度を確認しつつ、基礎力を養います。
- ④ 発声と発話。課題曲を通して姿勢・呼吸・リズムを総合的につなぐ訓練をします。
- ⑤ 感情表現と音の変化。課題曲を通して表現力の向上と音の変化を意識します。
- ⑥ 試験直前対策。基礎を復習しつつ課題曲の個別歌唱・アドバイスを行います。
- ⑦ 中間試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。
出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 復習と滑舌(表情筋)。1クォーターを振り返りつつ課題曲を設定、歌唱表現における表情筋の役割についての説明と実践をしていきます。
- ⑨ 滑舌(母音)と表現。課題曲を通して日本語の滑舌(母音)の説明と訓練を行います。
- ⑩ 滑舌(子音)と表現。課題曲を通して日本語の滑舌(子音)の説明と訓練を行います。
- ⑪ 滑舌と表現。課題曲を通して子音及び母音を意識し、表現を技術的に分解します。
- ⑫ 音域の拡大。課題曲を通して基礎発声の強化及び自己課題の再確認を行います。
- ⑬ 音域の安定。個々人の課題を意識した練習を行います。
- ⑭ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスを行います。
- ⑮ 期末試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。

出席率及び授業態度、授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォイストレーニングⅡ
担当講師名	入来院真嗣
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社の仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録ディレクション、その他歌手や声優・商業劇団などへの歌唱指導の実務経験を持ちます

授業内容

ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

無理のない効率的な発声を理解・獲得し歌唱表現に活かすこと、また、グループレッスンを通して人前で歌うことに慣れ、同時に他者を観察することで得られる自身の表現力向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期の復習。基礎を振り返りつつ課題曲の設定、目的を解説します。
- ② 表現の分解。課題曲を通して歌唱表現を技術的に分解・模倣することで具体的な引き出しとして体感、獲得を目指します。
- ③ 表現の実践と安定。課題曲を通して自分なりの歌唱表現に挑戦します。
- ④ 自己観察1。客観的に自己を観察することでより具体的な自己課題を意識します。
- ⑤ 自己観察2。客観的に自己を観察することでより具体的な自己課題を意識します
- ⑥ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
- ⑦ 中間試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。
出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 洋楽に挑戦。復習をしつつ課題曲の設定・目的の解説を行います。
- ⑨ 表現力向上。課題曲を通して音節や文法といった日本語との違いを意識します。
- ⑩ 発声課題の再認識。課題曲を通して自身の発声のクセ・課題と向き合います。
- ⑪ リズム課題の再認識。課題曲を通し、更なる基礎力向上・安定を目指します。
- ⑫ ハーモニーと俯瞰1。複数人で歌うことで発声技術のコントロールを意識します。
- ⑬ ハーモニーと俯瞰2。客観的に聞く力を養い、自身の基礎力向上を目指します。
- ⑭ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
- ⑮ 期末試験。課題曲の歌唱試験を行い、理解度・到達度を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。
出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンス I
担当講師名	YUMiKA
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

ストレッチや筋力トレーニング、リズムトレーニングなどパフォーマンスに必要な体作りやリズムの取り方を習得して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスの基礎、基本的な動きを学び、ただ体を動かすのではなく、しっかり音楽に乗って踊れるようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容や流れを実際に身体を動かしながら説明して行きます。
- ② ストレッチや筋力トレーニングなどウォーミングアップの方法を学んで行きます。
- ③ アイソレーションとは何か、どのように必要なかを説明し学んで行きます。
- ④ 基本的なリズムの取り方を学んで行きます。
- ⑤ リズムをキープしながらステップが出来るようにして行きます。
- ⑥ ここまでに学んだ体の使い方、リズムの取り方など試験前の最終確認を行います。
- ⑦ 授業で行った範囲内で実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で伝えるポイントをしっかり理解し、正しく体を動かすことが出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけ出なく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ウォーキング/音楽に合わせて魅せる歩き方を学んでいきます。
- ⑨ ウォーキング/ポージングや手の動きなどと組み合わせてウォーキングが出来るようにして行きます。
- ⑩ ターン/ターンの行い方を学びます。
- ⑪ ターン/ステップやウォーキングと組み合わせてターンが出来るようにして行きます。
- ⑫ 振付を覚えて踊れるようにして行きます。
- ⑬ 振付をただ覚えるのではなく、より正確に踊れるようにして行きます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをして行きます。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、リズムを正確に取れているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅡ
担当講師名	YUMiKA
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

春学期で身につけたスキルと体力アップをもとに、振付の難易度も高くなっていきます。ダンスと歌を繋げてイメージした自分により近づけるように表現力を鍛えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスを通してステージ上で自分自身をどう魅せたいのかを考え、表現出来るようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期で学んだ事の確認をします。
- ② 細かいニュアンスやリズムを表現出来るように、どのように体を使うのかを学んで行きます。
- ③ 感情表現や曲に合った表現が出来るように学んで行きます。
- ④ 長めの振付を決められた時間内でより正確に覚えられるようにして行きます。
- ⑤ 自分ならどのように表現するかを考え、グループに分かれて見せ合います。
- ⑥ 試験範囲の注意点を確認し、踊り込みをします。
- ⑦ ダンスの実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、曲に合った表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自己表現/自己表現の手段としてのダンスと歌を繋げて行きます。
- ⑨ 自己表現/自分のステージ上での姿をイメージし、どうすれば出来るのかを考え表現して行きます。
- ⑩ 自己表現/前回考えたイメージを固めて魅せ方を研究して行きます。
- ⑪ 自己表現/他の人と表現を見せ合い、お互いの良いところを見つけて情報共有をします。
- ⑫ 振付の中のフリーの時間をどのように使うか考えて作って行きます。
- ⑬ 前回までの振付を復習しながら更に振付を進めて行きます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをします。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、自己表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ステージパフォーマンス I
担当講師名	澄 淳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はジャズのライブ活動、ミュージカル出演、コンサート演出、映画音楽担当の経験を持ちます

授業内容

パフォーマンスとは何か、なぜ人前であるいは、画面で歌うのかを考えながら、各自のパフォーマンスの形を追求します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

舞台上画面上でありたい自分を、少しずつ形にしていきます

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目の紹介 パフォーマンスにおいて大切なものを発表していきましょう。
- ② 各自が発表した、パフォーマンスにおいて大切なものを踏まえつつ自分を表現してみましょう。
- ③ 自分を表現していてそれが歌になっていく。歌唱に入ります。
- ④ 自分の表現を邪魔しているものに注目してみましょう。
- ⑤ 他の生徒のパフォーマンスもプロデューサー目線で見てください。
- ⑥ 他者にアドバイスしていく、そうしながらパフォーマンスに大切なものを学んでいきましょう。
- ⑦ 自分の求めているパフォーマンスを自分自身クリアにしていきましょう。

中間試験評価方法・評価基準

『理想のステージ』をレポートで提出してもらいます。自分のイメージをどこまで育てているかを評価します

出席 30% 平常点 40% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ パフォーマンスと身体のあるようの重要な関係性を学びます。
- ⑨ 話し声と歌声
- ⑩ 伝えるということ その時の身体は？また声の使い方はどうなのかを探ります
- ⑪ 二人一組になって、相手に歌ってみましょう。
- ⑫ 何を伝えたいのか、歌の解釈もかかわってきます。
- ⑬ 二人からステージ上と客席に代わってきます。
- ⑭ 自分の身体をもう一度チェックしてみましょう。
- ⑮ 身体も心も歌の世界に生きているかどうかチェックです。

期末試験評価方法・評価基準

『今の自分に必要なもの、手に入れたいもの』をレポート提出。人前で歌う経験を経て、これからどういう点にフォーカスを当てていくのが自分で気づいてもらいます
出席 30% 平常点 40% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ステージパフォーマンス II
担当講師名	澄 淳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はジャズのライブ活動、ミュージカル出演、コンサート演出、映画音楽担当の経験を持ちます

授業内容

パフォーマンスとは何か、なぜ人前であるいは、画面で歌うのかを考えながら、各自のパフォーマンスの形を追求します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌と自分の距離を縮めます。曲の解釈と自分のイメージをはっきりさせていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 自分の魅力を探りましょう。グループのアドバイスを受けながら行います。
- ② グループの力を借りながら自分の魅力が発揮できる曲目を選びます。
- ③ Videoを撮る準備をします。目線やカメラワークを考え、自分の魅力が出るように事故演出していきます
- ④ Videoを撮ります。
- ⑤ Videoを撮ります。
- ⑥ Videoを見てチェックしていきましょう。
- ⑦ Videoを見てチェックしていきましょう。

中間試験評価方法・評価基準

ミュージックビデオの案をなるべく具体的にレポートで提出してもらいます。撮る場所など夢想的に広げてもらって構いません。曲の解釈、想像力を評価します。

出席 30% 平常点 40% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ グループでレポートとして提出した案を教室用に練り直しましょう。

- ⑨ リハーサルしていきます。曲の世界観があらわされているかをチェックしていきます。
- ⑩ リハーサルしていきます。曲の世界観があらわされているかをチェックしていきます。
- ⑪ リハーサルしていきます。曲の世界観があらわされているかをチェックしていきます。
- ⑫ Video 撮り
- ⑬ Video 撮り
- ⑭ Video チェック
- ⑮ Video チェック

期末試験評価方法・評価基準

『自分のパフォーマンスの特徴、魅力』をレポート提出。
1年がたち自分のパフォーマンスが形になってきたでしょうか。
出席 30% 平常点 40% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ディクシオン I
担当講師名	橋北哲哉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティスト、シンガー、声優、俳優へのヴォイストレーニングとディクシオンの長年にわたる実技指導、ヴォーカル教則本の執筆（ヤマハミュージックメディア、リットーミュージック）の実務経験を持ちます。

授業内容

ディクシオンは声と言葉の表現力を伸ばす授業です。発音別の発声と滑舌、歌詞分析、リズムリンケージ、MC、演技パフォーマンス等を総合的に向上してシンガーとしての表現力をスキルアップさせましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌詞の分析力アップで表現に奥行きを与え、様々な発音、グルーブ、滑舌スピードでも歌える事で歌唱の自由度を高めます。リズムリンケージでは歌唱中の不具合を解消します。MCは観客とのコミュニケーション力を上げ、演技パフォーマンスでは演技と向きあうことで個性的な自己表現を確立させます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① MC デビューした時に想定されるTVやラジオのメディア出演では、いったい何を話すべきか？大勢の前でのMC体験です。
- ② J-POP/洋楽研究 自分が表現したいと思うジャンルを歌って紹介（前半）。互いの音楽的趣向や熱意が伝わる刺激的な瞬間です。
- ③ J-POP/洋楽研究 自分が表現したいと思うジャンルを歌って紹介（後半）。互いの音楽的趣向や熱意が伝わる刺激的な瞬間です。
- ④ 滑舌 滑舌の仕組みとトレーニング方法を学びます。口腔内のメカニズムを学んで歌唱力アップにつなげましょう。
- ⑤ J-POP/洋楽研究 ヒット曲に隠された歌詞の魅力に迫ります。ひねりを理解するともうひとつの真実が見えてくるかもしれません。
- ⑥ リズムリンケージ 一定のテンポでリズムを掌握する方法。グルーブとは？はねる？リズムの基本理解と技術アップを図ります。
- ⑦ 試験 クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ MC 聞き手が理解しやすいように、伝えたいことを順序良く話題を並べてトーク。但し制限時間内で行います。
- ⑨ 表現力研究 歌唱時の表情は表現力に繋がります。参考映像から学べる表情と気持ちの伝え方の関係。歌唱に応用させましょう。
- ⑩ 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ⑪ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ⑫ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的視点からの演出が大切です。
- ⑬ MC 夏本番！季節感のある話題でトーク。何を伝えたいかを意識してぶれずに最後までまとめましょう。
- ⑭ リズムリンケージ 発声、滑舌、音程等のコントロールをリズムにリンクさせることで歌唱基本技術の向上を図ります。
- ⑮ 試験 クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ディクシオンⅡ
担当講師名	橋北哲哉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティスト、シンガー、声優、俳優へのヴォイストレーニングとディクシオンの長年にわたる実技指導、ヴォーカル教則本の執筆（ヤマハミュージックメディア、リットーミュージック）の実務経験を持ちます。

授業内容

言葉を使ってアートするヴォーカルは舌、唇、顎をいつでも自由自在に扱えることで感動的な演出が可能になります。秋学期はより進んだ内容で各技術を鍛えます。また、授業の取り組み方も「吸収して学ぶ」から「研究して学ぶ」に変化します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アートの概念に向き合うことで独自性の高い表現力に繋がります。また、リズムと一体になることで歌唱時のウイークポイントの解消を目指します。演技パフォーマンスでは演出、演技の研究を発展させることで個性的なパフォーマンスを更に高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 表現力研究 表現力に繋がる歌唱時の表情。参考映像から学べる表情と表現力。歌唱に応用させましょう。
- ② 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ③ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ④ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的な演出が大切です。
- ⑤ 演技パフォーマンス ゲネプロ。作品の完成度を上げながら演技を行います。
- ⑥ 演技パフォーマンス 本番。稽古してきた成果を発表しましょう。
- ⑦ 試験 今までの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 滑舌 オリジナル早口言葉フレーズ特集。正確かつスピーディに発音して苦手を得意に変えましょう。
- ⑨ リズムリンケージ リズム＋発声＋滑舌＋音程コントロールのトレーニング。歌唱時の滑舌メカニズムをより円滑化します。
- ⑩ 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ⑪ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ⑫ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的視点からの演出が大切です。
- ⑬ 演技パフォーマンス ゲネプロ。作品の完成度を上げながら演技を行います。
- ⑭ 演技パフォーマンス 本番。稽古してきた成果を発表しましょう。
- ⑮ 試験 今までの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブル I
担当講師名	荒井 善博
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコーラス、コーラスアレンジ、ソロヴォーカルとしてステージでの演奏
またレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

主に複数人数での歌唱方法、コーラスアレンジについて学びます。
歌唱だけではなく、演奏者同士の意思疎通のとり方、そのツールとして楽譜への理解
考え方、伝え方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

仲間と声を重ねて歌唱する楽しさを学びます。
そのツールとして、譜面を読み、またはコーラスアンサンブルを自力でアレンジ
仲間とそれをステージでよりレベル高く歌唱できるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 簡単な譜面の読み方 音符読み書き Level
- ② 簡単な譜面の読み方 コードの理解 Level1
- ③ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 課題曲譜読み
- ④ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 各パートの理解
- ⑤ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑥ クラス全体でパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑦ アンサンブルパフォーマンスをクラスで発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%
アンサンブルは個人では成立しない為、出席率はそのまま成績とします。
また、内容評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断できるようにします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 簡単な譜面の読み方 発生法 音符読み書き Leve2
- ⑨ 簡単な譜面の読み方 発生法 コードの理解 Leve2
- ⑩ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 少人数にグループ分け課題曲譜読み
- ⑪ 題曲を通してアンサンブルリハーサル 各パートの理解
- ⑫ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑬ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑭ 各グループでパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑮ 各グループでパフォーマンスを発表 クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%

アンサンブルは個人では成立しない為、出席率はそのまま成績とします。

また、内容評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断できるようにします。

特記事項

五線紙ノート、筆記用具を使用しますので各自でお持ちください。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅡ
担当講師名	荒井 善博
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコーラス、コーラスアレンジ、ソロヴォーカルとしてステージでの演奏
またレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

春学期での基礎力を元に、より実践的な内容を学びます。
アレンジ作業、リハーサル作業等を主体的に進め、役割分担などを通し
自身で決めた課題、また仲間と課題をクリアしていく楽しさを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

仲間と声を重ねて歌唱する楽しさを学べます。
そのツールとして、譜面を読み、またはコーラスアンサンブルを自力でアレンジし
よりレベル高くステージで歌唱できるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グループ分け、課題曲を決める。アレンジ作業を開始
- ② リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ③ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ④ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑤ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑥ パフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑦ アンサンブルパフォーマンスをクラスで発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%
アンサンブルはひとりでは成立しない形態です、出席率はそのまま成績とします。
内容の評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断してもらいます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ グループを決める課題曲を決める。アレンジ作業を開始
- ⑨ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑩ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑪ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑫ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑬ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑭ 各グループでパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑮ 各グループでパフォーマンスを発表 クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率 95% 理解度 5%

アンサンブルはひとりでは成立しない形態です、出席率はそのまま成績とします。
内容の評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断してもらいます。

特記事項

五線紙ノート、筆記用具を使用しますので各自でお持ちください。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルジャンル概説
担当講師名	マチーデフ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画やテレビ番組、CM等のエンターテインメント業界でラップ監修を担当するなどの実務経験を持ちます。

授業内容

様々な音楽ジャンルに触れ、ヴォーカリストとしての表現力を磨きます。
また、世の中で話題になっているコンテンツを考察し、トレンドをキャッチする力を身に付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

あらゆる作品、表現を、独自の感性でインプットできるようになる事を目標とします。
また、自分の武器を自覚し、セルフブランディングができるようになる事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①自己紹介
- ②ラップのリズム
- ③ラップのリズム 2
- ④韻の発想法
- ⑤韻の発想法 2
- ⑥作詞トレーニング
- ⑦韻を用いた作詞

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：提出物

評価基準：授業の出席率 70% 提出物 20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧サンプリングの世界

- ⑨サンプリングの世界 2
- ⑩マッシュアップ
- ⑪邦楽トレンドの歴史
- ⑫ストーリーテリング
- ⑬DJ 体験
- ⑭セルフブランディング 1
- ⑮セルフブランディング 2

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：提出物

評価基準：授業の出席率 70% 提出物 20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	スコアトレーニング I
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

音楽の基礎知識を学びます。簡単な楽典、新曲視唱、聴音を学習していきます。譜面が読めて、理解し、書けるようになるための授業です。しっかりと学習してほしい、大切なクラスです。コツコツ勉強して、実力を高めてください。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音の読み方、譜面を書くために必要な記号、音符の長さ、曲の進行に関する記号など、基礎の基礎からスタートします。わかっているつもりにならず、初歩から確認しながらしていきます。2度、3度の音程の新曲視唱、同じく聴音も2度3度の音程から学習し、慣れていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音部記号、五線、小節線、音の読み方、記号、音符の長さ、拍子、音符の高さなど、基礎の基礎からスタートします。
- ② 前回の復習＋曲の進行を表す記号、音楽表記の記号など、譜面を読む、理解する、書くのに必要な記号を学びます。
- ③ 毎回、簡単な楽典プリントを勉強します。少しずつ知識を増やし、譜面の理解力をつけましょう。
- ④ 新曲視唱は何キーの曲か、主要3和音を考えてから歌っていきます。はじめは2度3度の音程の短い曲からスタートです。
- ⑤ 聴音は、新曲視唱と並行して、同じ2度3度の音程の、2小節の短い聴音からスタートします。
- ⑥ 毎回、楽典、新曲視唱、聴音を学習します。少しずつ高度になっていきますが、しっかり学習しましょう。
- ⑦ 一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(2～4小節)をします。

中間試験評価方法・評価基準

新曲視唱は、大きな声ではっきり歌えるかをチェックします。自信がなければ、ゆっくり歌っても大丈夫です。聴音は、短い小節をしっかり聞いて、分かるまでチャレンジしてもオッケー、やり方を覚えてください。

出席:30%、平常点:30%、試験 40%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 4度5度音程の新曲視唱、聴音は8ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニングになります。
- ⑨ 4度5度音程の新曲視唱、8ビートのイヤートレーニング、まずはリズム聴音からです。
- ⑩ 新曲視唱は、グループに分かれて、伴奏したりハーモニーを工夫したりして発表する形で歌います。
- ⑪ 新曲視唱、毎回違うメンバーで相談して発表していきます。聴音は16ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニング。
- ⑫ 新曲視唱は、グループで工夫して発表していきます。16ビートのイヤートレーニングは、リズム聴音から。
- ⑬ 新曲視唱、グループで練習していく事に慣れ、ハーモニーを楽しんでください。イヤートレーニングは、8、16両ビートで。
- ⑭ 新曲視唱のグループ発表形式は今回でおしまい。楽しく歌ってください。聴音もリズム聴音に慣れていきましょう。
- ⑮ 一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(4~6小節)をします。

期末試験評価方法・評価基準

新曲視唱の前に、歌う曲のキーと主要3和音を言えるようにしましょう。聴音は、まずリズム聴音をしっかり出来るようになるといいですね。

出席:30%、平常点:30%、試験 40%

特記事項

プリントをたくさん配りますので、この授業用のファイルを用意してください。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	スコアトレーニングⅡ
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

秋学期は、譜面を読み、譜面を理解し、そして、譜面を書いていくスキルをアップさせていきます。4/4 拍子の譜面の書き方、4/3 拍子、8/6 拍子はどう書くか、読みやすい譜面を作る勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1オクターブまでの音程を歌ったり聴き取ったりします。新曲視唱では、クリスマスソングやラテンポップスにもチャレンジします。また、手拍子付き視唱も学習します。聴音では、シャッフルや 16 バウンスのビートの書き方なども学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 5度6度の新曲視唱、聴音は読みやすい4/4拍子の書き方で聴き取っていきます。
- ② 5度6度新曲視唱、4/3拍子と8/6拍子の聴音、書き方やリズムの取り方を考えましょう。
- ③ シャッフルのイヤートレーニング、まずリズム聴音でビート感に慣れ、シャッフルの表記の仕方も気をつけます。
- ④ 7度1オクターブまでの音程の新曲視唱、シャッフのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
- ⑤ 16バウンスのイヤートレーニング、リズム聴音から始めて、16バウンスの表記も気をつけます。
- ⑥ 1オクターブまでの音程の新曲視唱、16バウンスのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
- ⑦ 新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

新曲視唱は、音程がしっかりしているかをチェックしますが、大きい声で元気に歌うようにしてください。キーと主要 3 和音をしっかり答えられるように。聴音で聴き取ったフレーズを、移調したり、1オクターブ下げたりします。これまで学習してきた楽典の成果を見せてください。

出席:30%、平常点:30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧ 新曲視唱はクリスマスソング、2声でハモってみましょう。聴音もゴスペル風なリズム聴音にチャレンジ。

⑨ 1オクターブまでの音程の新曲視唱、聴音も8小節の聴き取り方を練習していきます。

⑩ 新曲視唱は、これまでの旋律だけの斉唱に加えて、手拍子付き聴音にチャレンジしていきます。

⑪ 1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き視唱、和音の聴音が新しい課題として入ってきます。

⑫ 1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き聴音、和音の聴音など。

⑬ 書くためのスキルアップとして、各拍子の書き方をもう一度復習して確認します。

⑭ 様々なラテンポップスや、民謡などを、楽しんで視唱していきます。

期末試験評価方法・評価基準

まず、譜面が読めること、理解すること。新曲視唱は一人ずつ行います。キーと主要3和音、しっかり答えましょう。その後全体で聴音。移調やオクターブの上げ下げ、身につけて欲しいスキルです。

特記事項

1年間で音楽の基礎知識を学びました。これを活かして、楽しみながら、たくさん演奏したり歌ったり曲を作ったりしてください。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	吉岡靖高
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えて、自分を表現することができるようになる為の基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないてはならないものです。1年次では音楽の基礎知識を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習したことを実際の楽曲に、歌手としてまたはコンポーザー、アレンジャーとして使えるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音符、五線譜、クレフ、音名などの基礎知識を学習します。
- ②音程(1): 音程とは何か？音程の数え方について学習します。
- ③音程(2): 2度音程について学習します。
- ④音程(3): 3度音程について学習します。
- ⑤音程(4): 4度音程について学習します。
- ⑥復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クォーター末試験: 筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席20%を総合して評価します。授業のノートをしっかり取るのが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程(5): 5度音程について学習します
- ⑨音程(6): 6度音程について学習します。
- ⑩音程(7): 7度音程について学習します。
- ⑪音程(8): 8度以上の音程について学習します。
- ⑫コード(1): トライアドのことを学習します。
- ⑬コード(2): 7thコードのことを学習します。
- ⑭復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。
授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	吉岡靖高
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えて、自分を表現することができるようになる為の基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないてはならないものです。1年次では音楽の基礎知識を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習したことを実際の楽曲に、歌手としてまたはコンポーザー、アレンジャーとして使えるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 調号と Key について学習します。
- ② Major scale と Diatonic chord を学習します。
- ③ Natural Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ④ Harmonic Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ⑤ Melodic Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ⑥ 復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦ クォーター末試験: 筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Tension chord について学習します。
- ⑨ Chord progression Analysis (1): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Dominant motion を学びます。
- ⑩ Chord progression Analysis (2): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。II – V、Secondary dominant を学びます。
- ⑪ Chord progression Analysis (3): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Sub chord、II – bII を学びます。
- ⑫ Chord progression Analysis (4): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Modal Interchange について学びます。
- ⑬ Available note scale について学習します。
- ⑭ 復習: このクォーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮ 期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。
授業のノートをしっかり取るのが大切です。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	コンピュータリテラシー
担当講師名	有馬知章
学期	春（夏季休暇中）
授業の形態	演習（集中）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、スタンフォード大学 CCRMA サマーセッションでの研究、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナー、ヤマハプリント楽譜より楽譜の配信業務の経験があります。

授業内容

Microsoft Word の使い方を覚えプロフィールシート制作をおこないます。同時に AdobePhotoshop の初歩的操作、スマートフォンでの写真撮影とデータの管理について学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽活動、就業活動を行う際に必要となるプロフィールシートの制作方法の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の操作・MicrosoftOffice の説明・タイピングを練習します。
- ② プロフィールの必須情報を確認して必要な情報を収集します。
- ③ Word の基本操作を学習し、プロフィールに必要な情報を入力します。
- ④ Photoshop の基礎操作を学習します。
- ⑤ Photoshop で写真を加工します。
- ⑥ スマートフォンを使った写真の撮り方を学習します。
- ⑦ プロフィール用の写真を撮影します。

中間試験評価方法・評価基準

作品の途中経過の確認をおこないます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 撮影した写真を、スマートフォンから PC へ転送します。
- ⑨ Photoshop を使ってレタッチを行う（トリミング、色調補正）
- ⑩ プロフィールの文章を書きます。
- ⑪ Word に写真、文章を配置します。
- ⑫ 写真の編集、修正を行います。
- ⑬ プリントアウトして最終的な確認と文章を推敲します。
- ⑭ 内容を再確認します。
- ⑮ 完成したプロフィールを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	スタッフワーク I
担当講師名	石井 為人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界において、プロデュース、アレンジ、作曲、演奏活動の経験を持ちます。

授業内容

ライブコンサートに必要な事を学びます。1 企画、2 リハーサルに必要な音響機器の使い方、3 選曲、4 演出、5 スケジュール決め、6 音資料の提出、7 譜面作成、8 バンド、照明、ライブハウスとの打ち合わせ、9 衣装合わせ 等の具体案とライブの実践を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

フレッシュライブの企画と実践。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業内容の説明。フレッシュライブの趣旨説明。企画に必要な事柄の説明。マイクの取り扱い方、マイクスタンドの設定の仕方、ミキサーの使用法の説明です。
- ②フレッシュライブの為の選曲のコンセプトの説明です。カラオケとライブの違いや観客を意識した選曲とは何かを考えます。
- ③リハーサルや本番で使う機材の説明です。まずはマイクについて、ダイナミックマイクの特徴、使い方、接続の仕方を覚えます。
- ④機材の使い方 1 で学んだことを使いつつミキサーへの接続、ミキサーのオペレーションを覚えます。
- ⑤機材の使い方覚えたことをリハーサルの実践で活用します。その際に起こる事に対処する知識を学びます。
- ⑥リハーサルのスケジュールの作成。選曲の見直し。曲順のたたき台を作ります。一歩ずつ本番のシミュレーションをします。
- ⑦ライブに参加する学生の個性や傾向をお互いに理解し、一時間半のステージをどの様に構築するかを考えます。

中間試験評価方法・評価基準

ライブの企画の初級編です。初めて覚える事が多いなか、いかに相手の事を考えながら全体を考えられるかが重要になります。加えて選曲、曲順、チーム分け、機材の使い方、スケジュールの立て方、クラス間のコミュニケーションの具体的な方法を考えて実行しているかどうか、それぞれの学生が持っている才能や特徴をお互いに限られた時間の中で捉えていけるかが目標であります。出席 50% 実技 50%で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1クォーターで練った企画を発展させていきます。今の時代の現場を考えながら独自の案を練り直し、修正を加えていきます。
- ⑨ 音楽のジャンルを考えて見ましょう。知らないジャンル、ルーツミュージック等より幅広く音楽を考えていきます。
- ⑩ リハーサルに必要な音源 DATA の作り方をおぼえます。mp3、カラオケ、CD の音質のクオリティを体験します。
- ⑪ ステージングを考えながらのリハーサル実践を行います。立ち位置、バミリ、マイクをつかってのパフォーマンスを練習します。
- ⑫ 曲順の最終見直し段階に入ります。オープニングからエンディングまでの流れを確認していきます。
- ⑬ バンドとのコミュニケーションを行います。それぞれの曲のテンポ、構成などパフォーマンスと共に作っていきます。
- ⑭ 本番を想定してのリハーサルを行います。バンドやオケの音出しの為のキューを確認します。
- ⑮ 衣装、照明、MC、マイクの受け渡し、振り付け、モニターの音量確認、等これまで準備した事を確認してから、いよいよ本番です。

期末試験評価方法・評価基準

1クォーターで学んだ事の実践です。本番に至るまで様々なトラブルが予想されます。譜面の書き直し、振付の見直し、衣装と照明の関係、司会の内容等、多くの修正点を補正しながら如何に会場の観客との一体感を生み出すかが目的です。それぞれの役割を理解し行動しているかが評価の対象です。出席 50% 実技 50%で評価します。

特記事項

感染症等を防ぐ為、マスク、マイクカバーを持参して下さい。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	スタッフワークⅡ
担当講師名	石井 為人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽業界において、プロデュース、アレンジ、作曲、演奏活動の経験を持ちます。

授業内容

クリスマスライブ企画と実践。企画に必要な事柄の説明。選曲の趣旨。P.A Personal Adress)の説明と使用法。マイクの取り扱い方、マイクスタンドの設定の仕方、ミキサーの使用法、フェイダーによるバランスの取り方、リハーサルに必要な案件の説明。リハーサルのスケジュールの決め方、バンド譜の書き方、バンドとのコミュニケーションの取り方。春学期からの応用編です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クリスマスライブの趣旨を理解する、参加者のそれぞれの役割を理解しコミュニケーションをとる。選曲の趣旨を理解し観客を意識したプログラムを考える。参加者とのコミュニケーションをとりつつ本番までの変化していく企画を共有する。リハーサルの日時、場所を決めバンド譜、照明案を考え演出を構築する。リハーサルに必要な機械の使用法を覚える。など本番を迎えるに必要な事柄の理解と実践を目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①クリスマスライブのコンセプトについて話し合います。サブタイトルについても話し合い、選曲のアイデアを出していきます。
- ②クリスマスというイベント性、季節などを考えながら選曲の絞り込みをしつつサブタイトルを決めていきます。
- ③春学期で学んだ機材の使い方を復習しながら更にイコライザー、ハウリング防止の為の対策を覚えます。
- ④第3回で学んだ事をベースに空間系のエフェクトの使い方、ミキサーのエフェクトセントリターン回路の回路を覚えます。
- ⑤機材の使い方覚えたことをリハーサルの実践で活用します。その際に起こる事に対処する知識を学びます。

⑥リハーサルのスケジュールの作成。選曲の見直し。曲順のたたき台を作ります。一つづつ本番のシミュレーションをします。

⑦ライブに参加する学生の個性や傾向をお互いに理解し、一時間半のステージをどの様に構築するかを考えます。

中間試験評価方法・評価基準

ライブの企画の中級編です。初めて覚える事が多いなか、いかに相手の事を考えながら全体を考えられるかが重要になります。加えて選曲、曲順、チーム分け、機材の使い方、スケジュールの立て方、クラス間のコミュニケーションの具体的な方法を考えて実行しているかどうか、それぞれの学生が持っている才能や特徴をお互いに限られた時間の中で捉えていけるかが目標であります。出席 50% 実技 50%で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

⑧ 1クォーターで練った企画を発展させていきます。今の時代の現場を考えながら独自の案を練り直し、修正を加えていきます。

⑨実際に行われているクリスマスライブを参考に、独自のコンセプトを練り直します。ストーリー性なども考えて見ます。

⑩選曲した楽曲を必要に応じてパート分けしていきます。コーラスなどのアレンジも考えていきます。

⑪お互いのリハーサルを記録し、気づいた事、改善できる事を見つけ、具体的なアドバイスを行います。

⑫曲順の最終見直し段階に入ります。オープニングからエンディングまでの流れを確認していきます。

⑬バンドとのコミュニケーションを行います。それぞれの曲のテンポ、構成などパフォーマンスと共に作っていきます。

⑭本番を想定してのリハーサルを行います。バンドやオケの音出しの為のキューを確認します。

⑮ 衣装、照明、MC、マイクの受け渡し、振り付け、モニターの音量確認、等これまで準備した事を確認してから、いよいよ本番です。

期末試験評価方法・評価基準

1クォーターで学んだ事の実践です。本番に至るまで様々なトラブルが予想されます。譜面の書き直し、振付の見直し、衣装と照明の関係、司会の内容等、多くの修正点を補正しながら如何に会場の観客との一体感を生み出すかが目的です。それぞれの役割を理解し行動しているかが評価の対象です。出席 50% 実技 50%で評価します。

特記事項

感染症等を防ぐ為、マスク、マイクカバーを持参して下さい。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	プレゼンテーション I
担当講師名	高松 俊
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレーベルの制作ディレクターとして多数のアーティストを担当するなど、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

ヴォーカリストにとって自己表現は非常に重要です。多くの人に自分の伝えたいことをアピールする訓練として一人ずつプレゼンテーションを行っていきます。さらに、ミュージック・ビジネスの仕組みや内容を理解し、プロの世界の現状を把握して個性とテクニック、プロモーション戦略の必要性等々、ビジネスとしての音楽の定義を掘り下げて考えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを明確に人に伝えるということが確実にできるようになる。現状を把握して自分の立ち位置や目標を客観的に判断できる能力を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要説明
- ② 自己表現実習 1
- ③ 自己表現実習 2
- ④ 自己表現実習 3
- ⑤ 自己表現実習 4
- ⑥ 自己表現実習 5
- ⑦ 試験（他者のプレゼンを評価しレポート）

中間試験評価方法・評価基準

出席点 40% 平常点 40% 試験 20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自己表現実習 6
- ⑨ 自己表現実習 7
- ⑩ 自己表現実習 8
- ⑪ 自己表現実習 9
- ⑫ プロの音楽ビジネス 1
- ⑬ プロの音楽ビジネス 2
- ⑭ プロの音楽ビジネス 3
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席点 40% 平常点 40% 試験 20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ライブ I
担当講師名	学科
学期	通年
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

チケット代を払って見に来てくれる人達に対してのパフォーマンスはどうあるべきか、カラオケ的自己満足ではなく、オーディエンスに対する責任とはどういうものかを、コンサート、ライブを実践することによって学び、エンターテインメントビジネスの基本を学んでいく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学科オフィシャルのフレッシュライブを手始めに、人前で歌うことをまず体験して伝える歌、伝わる歌を意識させていく。クリスマスライブでは、求められるパフォーマンスの質に加え、ライブ制作にかかわる経費、集客、収支の意識も理解できるようにしていく。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

フレッシュライブ、クリスマスライブに取り組む姿勢、および学外でのライブ実績を総合的に評価します。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オーディション I
担当講師名	
学期	通年
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学内で学科が推奨するオーディション（公開実技試験など）や、学外での業界オーディションに積極的に参加し、合格⇒デビューという方程式が成立しなくとも、実体験を積むことで成果を確認し、日々の授業やレッスンの目的意識を高める

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際、学内・外レベルで日々の研鑽が成果として評価されるかを自身で確かめ、その結果を分析、今後のレベルアップにつなげる為にオーディションを受ける
合格＝スクール勧誘などの可能性が高いのでその都度学科に相談の必要性あり

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

自身のレベルアップにどれだけ積極性を持てたか、視野を広げられたか、実際の合否を評価

特記事項

学科名	ヴォーカル学科／プロミュージシャン学科／アレンジ・作曲学科
科目名	インターンシップ I・II
担当講師名	
学期	春・秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部の催事やメディア出演等の学外活動、外部企業や音楽事務所等での研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動や、企業研修を体験することにより、実務的な経験と実績を得ることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等の評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等の評価します。

特記事項

学外活動や企業研修の機会を得る為には、それ相応の知識と技術に加え、コミュニケーション能力や各種マナーをはじめとする社会性も十分に備わっていることが必要になります。

す。